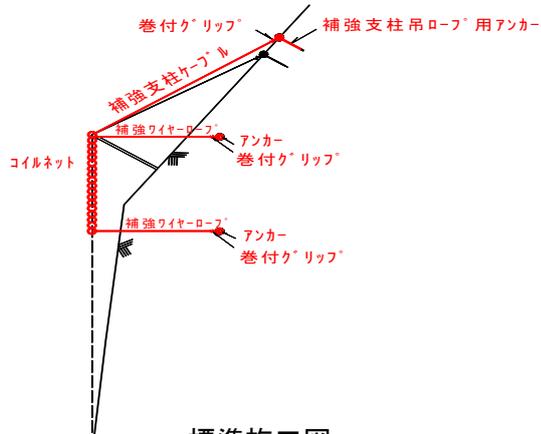
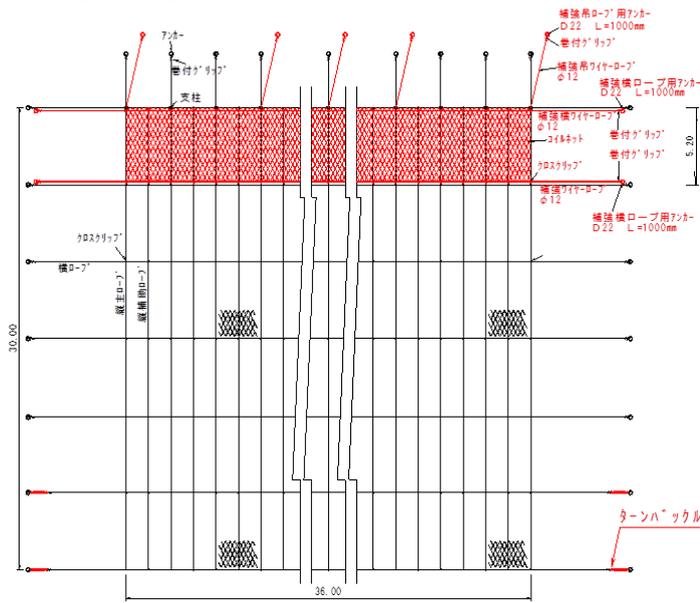


## 技術概要書（様式）

※別紙2

技術分類	<input checked="" type="radio"/> 安全・防災 <input type="radio"/> 維持管理 <input type="radio"/> 環境 <input type="radio"/> コスト <input type="radio"/> ICT <input type="radio"/> 品質                    （該当する分類に○を付けてください）		
技術名称	ケイワンコイルネット工法	担当部署	事務局
NETIS登録番号	KT-140046-A	担当者	高橋 一馬
社名等	楽石研究会	電話番号	072-232-6060
技術の概要	<p>1. 技術開発の背景及び契機</p> <p>従来の落石防止網工法に対し「既設の支柱や金網ネットを有効活用し、衝撃吸収能力を持たせることができないだろうか。」                  「耐久性だけでなく環境にも配慮した工法を。」というコンセプトをもとに開発されたのが、このケイワンコイルネット工法です。</p> <p>2. 技術の内容</p> <p>ケイワンコイルネット工法は、既設落石防止網の補強工法です。                  従来の落石防止網工では、構造物の経年劣化や、より耐衝撃性能が求められる場合、既設構造物では対応できなくなる事例が多々あります。                  そういった場合、通常は既設構造物の撤去、                  また新たな構造物の設置といった方法が必要になりますが、                  本技術の活用により既設構造物を撤去することなく補強して使うことができるようになります。</p> <p>3. 技術の効果</p> <p>ケイワンコイルネット工法では、耐衝突エネルギー性能の向上のほか、既設落石防止網の撤去や、それに伴う森林伐採が不要なため、環境に与える影響が小さくなります。                  また作業領域が最小限で済み、不良箇所単位の補修が可能のため、仮設備や材料、                  労務費に係るコストを最小限に抑えることが可能になります。</p> <p>4. 技術の適用範囲</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既設落石防止網がポケット式であり、想定される落石エネルギーが150kJ程度までの範囲で施工が可能です。新設での施工も可能となります。</li> <li>・現地の地質条件に応じたアンカー（横・吊ワイヤー用）が打設可能な斜面勾配、形状であり、保持できる範囲で施工が可能です。</li> <li>・現地での補修位置確定調査により、補修なし、もしくは一部分の補修のみで健全性が確保できると判断できた場合、施工が可能です。</li> </ul> <p>5. 活用実績</p> <p>国の機関    0 件（九州    0件、九州以外 0件）                  自治体        0 件（九州    0件、九州以外 0件）                  民間            0 件（九州    0件、九州以外 0件）</p>		

## 6. 写真・図・表



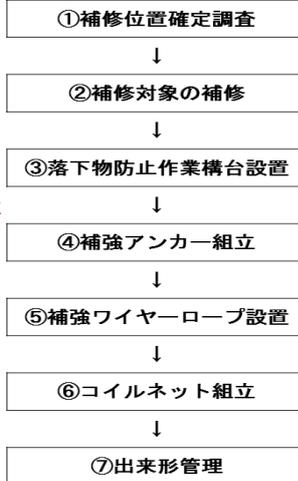
標準施工図



コイルネット設置

測定項目	規格値 (mm)	測定箇所
コイルネット設置高	-200	施工延長40mにつき1箇所 40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所以上
コイルネット面積	設計値以上	全数
施工延長	-200	支柱間の総延長
アンカー削孔長	設計値以上	全数
補修金網ネット面積	設計値以上	補修全箇所
補修ワイヤー	設計値以上	補修設置延長
コイルネット重ね合わせ	200以上	施工延長40mにつき1箇所
スリーブ圧着個数	コイルネット重ね合わせ箇所につき2個以上	40m以下のものは1施工箇所につき2ヶ所以上

### 施工フロー



施工方法



実証実験写真



コイルネット設置写真